

secondary vesicoureteral reflux: Comparison with primary vesicoureteral reflux in adults

(二次性膀胱尿管逆流症における glutaraldehyde cross-linked collagen を用いた内視鏡的逆流防止術: 成人原発性膀胱尿管逆流症との比較)

2) Evaluation of antibody class in response to endoscopic subureteral collagen injection in patients with vesicoureteral reflux

(膀胱尿管逆流症に対する内視鏡的 Collagen 注入逆流防止術後の抗体価の評価)

井上 勝己 (泌尿器科学)

基礎疾患を有する二次性 VUR に対する GAX コラーゲン (Glutaraldehyde cross-linked collagen) を用いた内視鏡的逆流防止術の有用性と安全性に関して, 成人原発性 VUR 例を比較対象とした長期治療効果と抗ウシコラーゲン抗体産生が逆流再発と副作用におよぼす影響を検討した。

二次性 VUR 群18例と成人原発性 VUR 群17例の逆流非再発率は60~70%と同程度の効果を認めた。また, GAX コラーゲン注入後, 約20%に抗ウシコラーゲン IgG 抗体産生を認めたが, 注入コラーゲン量の減少や治療効果に影響はなく, 副作用を生じなかったことより, 本治療の免疫学的な安全性が確認できた。

したがって, 本法は低侵襲な治療法で, 治療に難渋する二次性 VUR の有用な治療法であり, さらに, 自然治癒しうる小児原発性 VUR 例においては, 抗菌剤

長期予防投与を回避できる治療法のオプションとなりえると考えられた。

5. Growth characteristics of rectal carcinoid tumors (直腸カルチノイド腫瘍の発育に関する分子病理学的特徴)

清水 俊彦 (内科学第一)

大腸カルチノイド腫瘍の発育に関する分子病理学的特徴について解析した。

【対象と方法】直腸カルチノイド腫瘍50病変について, 免疫組織化学的な Ki-67, TGF- α , p53, bcl-2 の発現, ISNEL によるアポトーシスの発現, ISH による EGF レセプターの発現について検討した。

【結果】Ki-67 LI (labeling index), AI (apoptotic index) の平均値は各々 $0.62 \pm 0.59\%$, $0.15 \pm 0.12\%$ と低値であったが, Ki-67 LI と AI は有意に正の相関を示した ($p < 0.05$)。また Ki-67 LI ($p < 0.01$), TGF- α 発現陽性率 ($p < 0.01$), AI ($p < 0.05$) は腫瘍径と有意に正の相関を示し, TGF- α と EGF レセプターの同時発現は84.8% (39/46) であった。p53 蛋白発現は肝転移を伴う1例のみに認め, bcl-2 発現は1例も認めなかった。

【結語】直腸カルチノイドの緩徐な増殖過程にも増殖活性に関連してアポトーシスの関与を認め, TGF- α /EGF レセプターによる autocrine mechanism が機能していることが示唆された。

第454回

広島大学医学集談会

(平成13年7月5日)

—学位論文抄録—

1. Clinical usefulness of a multielectrode basket catheter for idiopathic ventricular tachycardia originating from right ventricular outflow tract

(右室流出路起源特発性心室頻拍に対するカテーテルアブレーションにおける64極バスケットカテーテルの有用性)

相庭 武司 (内科学第一)

右室流出路起源特発性心室頻拍 (RVOT VT) 患者へのカテーテルアブレーション (CA) に対し, 25例 (Control 群: 36 VTs) は4極カテーテルのみで, 25

例 (Basket 群: 45 VTs) は64極バスケットカテーテル (MBC) を右室流出路内に挿入し通電部位を決定した。両群間で通電回数 (n), 透視時間 (分), 手技時間 (分) を比較した結果, 全体ではいずれも差はなかったが, 心室性期外収縮 (PVC) 1波形あたりでは Basket 群が Control 群に比べ透視時間 (37 ± 14 vs. 52 ± 33 ; $p = 0.03$), 手技時間 (60 ± 15 vs. 82 ± 51 ; $p = 0.05$) とともに減少した。この差は PVC の出現が稀な例 (n=29) で顕著であった。すなわち RVOT-VT の CA において, MBC は短時間で VT 起源の同定と至適通電部位を決定可能とし, 特に VT (PVC) の出現が稀な例に対して効果的であった。